

高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査 結果報告書（概要版）

令和5年3月 高松市

1 調査対象及び有効回収数

（調査期間：令和4年12月1日～12月28日 ※令和5年1月16日回収分まで反映）

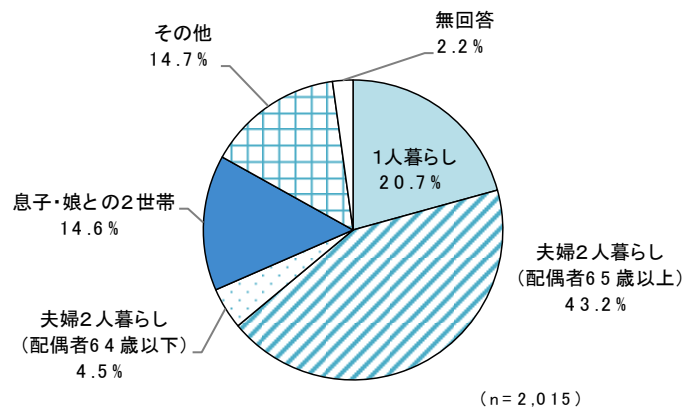
調査種別	調査対象者	標本数	有効回収数	有効回収率	（前回収率）
①高齢者	65歳以上の高齢者の方 （要介護1～5の認定者を除く）	3,000人	2,015人	67.2%	（64.4%）
②要介護認定者	65歳以上の高齢者のうち、 要介護1～5の認定者の方	2,800人	1,479人	52.8%	（49.1%）
③一般市民	40歳以上65歳未満の方	1,000人	395人	39.5%	（44.9%）
合計		6,800人	3,889人	57.2%	（55.3%）

2 結果報告

●家族構成について（①高齢者、②要介護認定者）

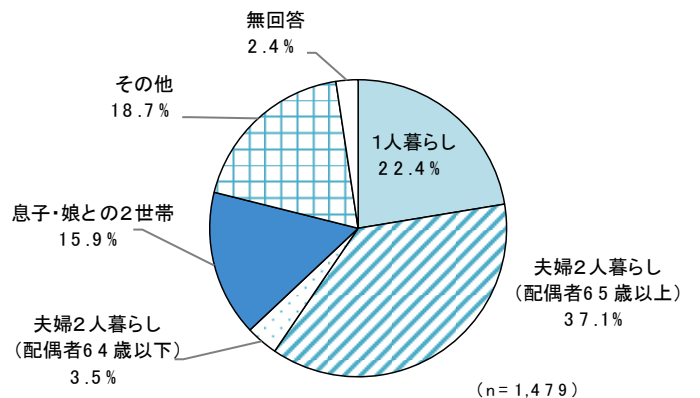
①高齢者（報告書P6）

「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」又は
「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」と
回答した人が合わせて約5割、
「1人暮らし」が約2割



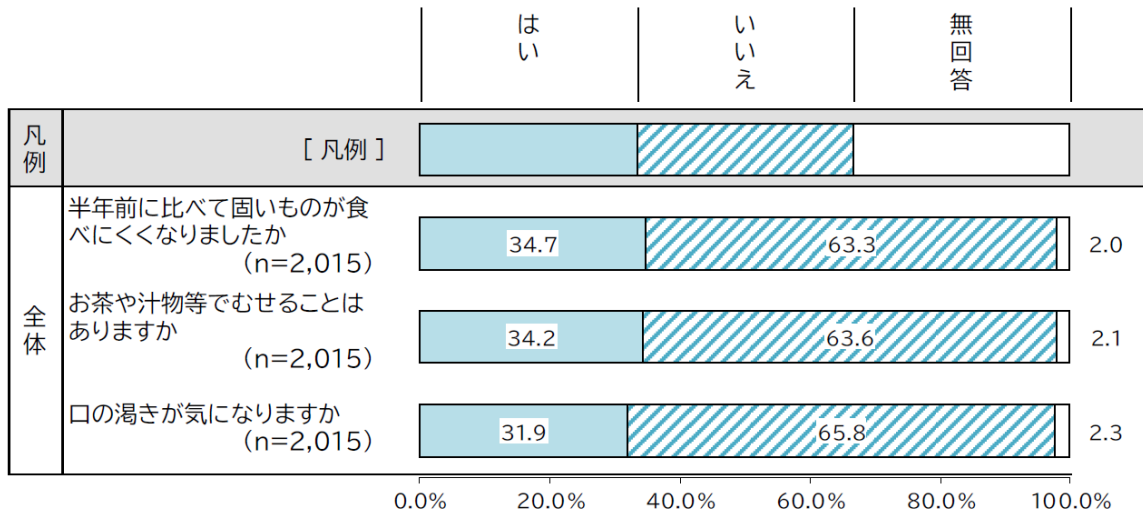
②要介護認定者（報告書P116）

「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」又は
「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」と
回答した人が合わせて約4割、
「1人暮らし」が2割以上



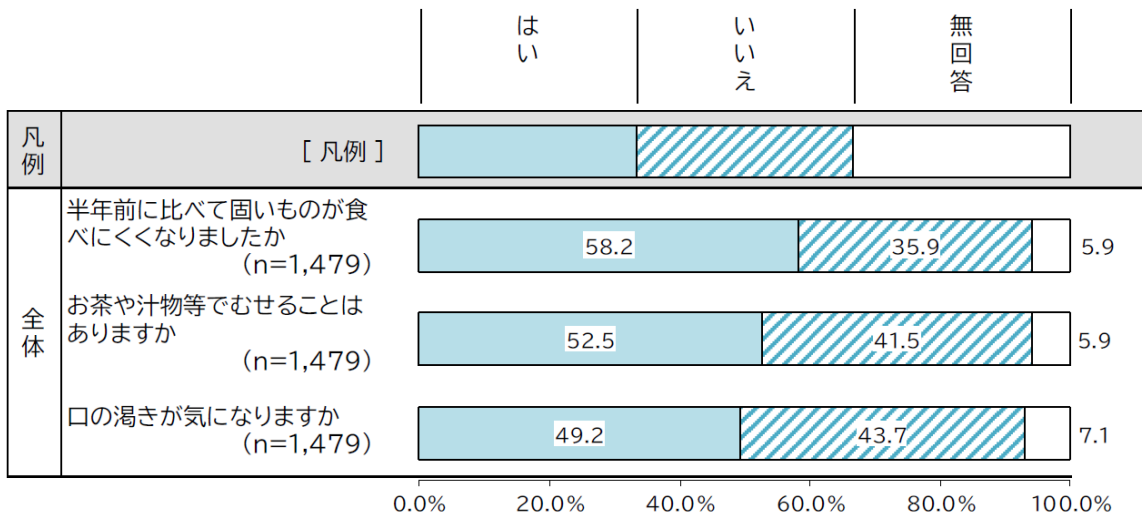
①高齢者（報告P23～25）

咀嚼機能の低下、嚥下機能の低下、口の渇きを感じている人はそれぞれ3割以上



②要介護認定者（報告書P133）

咀嚼機能の低下を感じている人は約6割、嚥下機能の低下を感じている人は5割以上、口の渇きを感じている人は約5割



●生きがいの有無と内容について

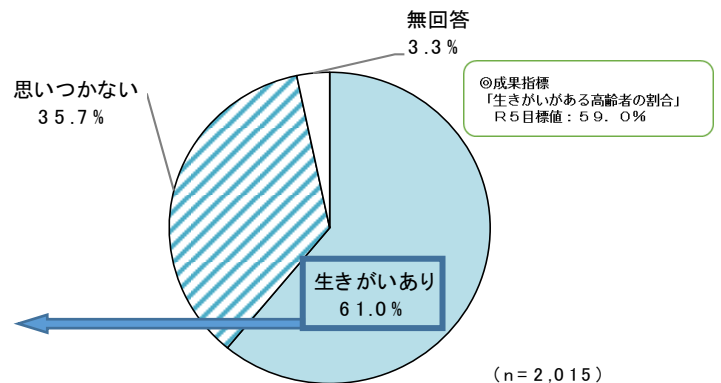
(①高齢者、②要介護認定者)

①高齢者 (報告書P40)

「生きがいあり」の人が6割以上

>>生きがいの内容 (上位3つ)

・子や孫の成長、交流	(204件)
・趣味	(84件)
・園芸、ガーデニング、草花の世話、栽培	(74件)

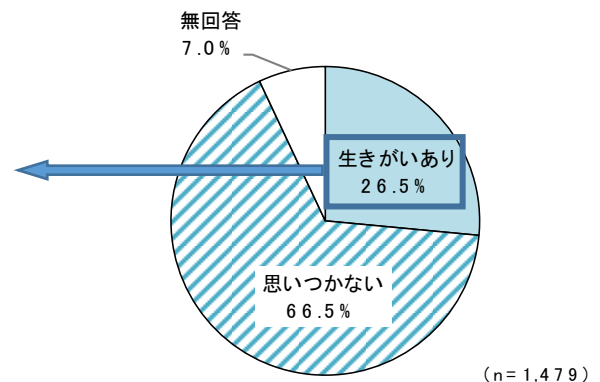


②要介護認定者 (報告書P150)

生きがいが「思いつかない」人が6割以上

>>生きがいの内容 (上位5つ)

・子や孫の成長、交流	(90件)
・趣味	(29件)
・家族との生活や交流	
・健康に元気よく暮らす	
・農作業、畑仕事、草花の手入れ	(各19件)

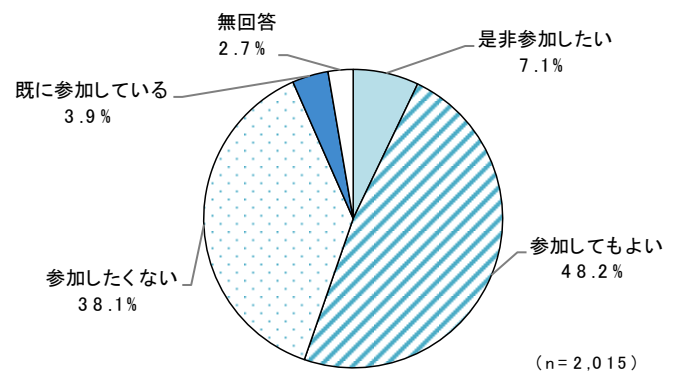


●地域づくりへの参加意向について

(①高齢者、②要介護認定者)

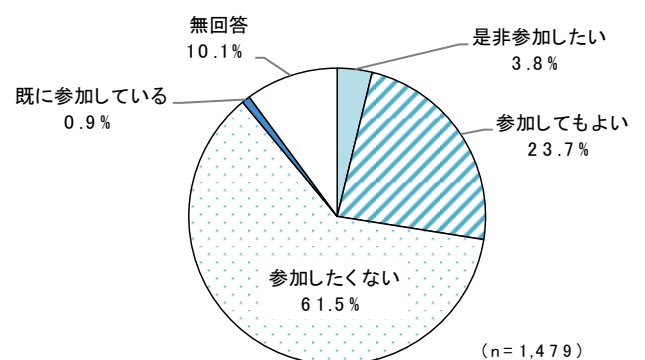
①高齢者 (報告書P43)

「是非参加したい」又は「参加してもよい」と回答した人が合わせて5割以上



②要介護認定者 (報告書P152)

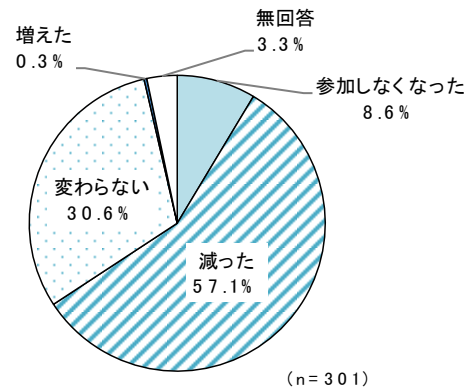
「是非参加したい」又は「参加してもよい」と回答した人が合わせて約3割である一方、「参加したくない」と回答した人が6割以上



●新型コロナウイルス感染症流行前と比べた、高齢者が集える場所への参加頻度 (①高齢者、②要介護認定者)

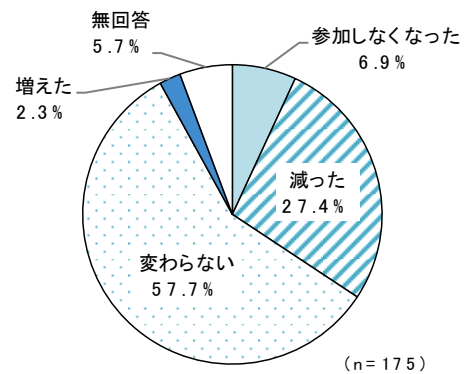
①高齢者 (報告書P79) (参加している=14.9%)

「減った」が最も多く約6割



②要介護認定者 (報告書P180) (参加している=11.8%)

「変わらない」が最も多く約6割

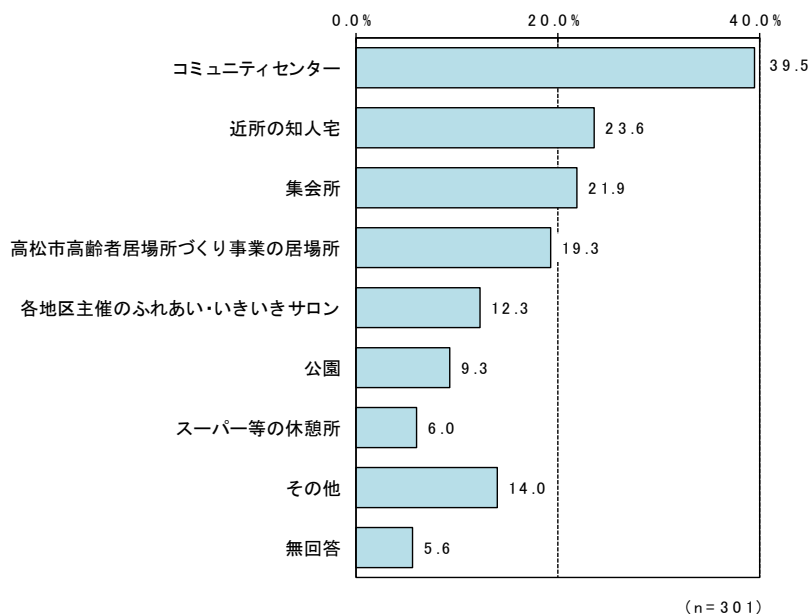


●高齢者が気軽に集える場所について (①高齢者、②要介護認定者、③一般市民)

※高齢者が気軽に集える場所に「参加している」と回答した方 (③は「知っている」と回答した方)

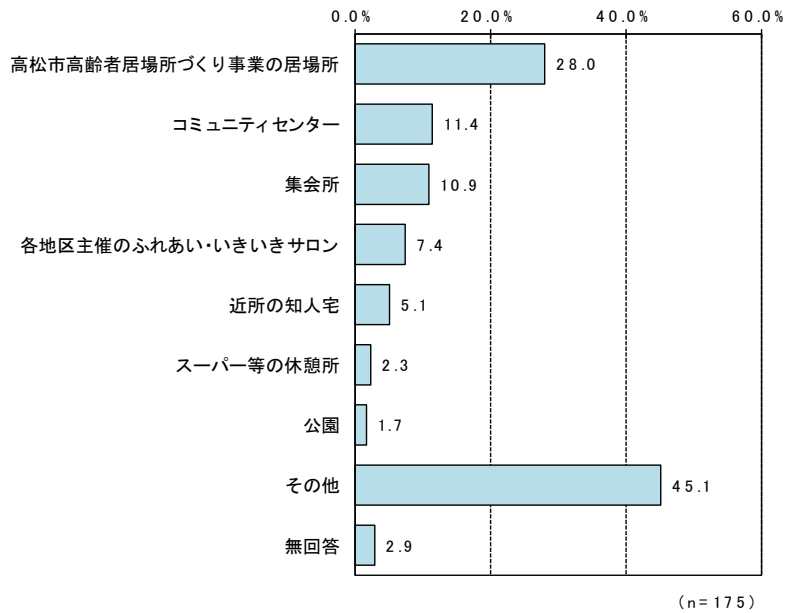
①高齢者 (報告書P78) (参加している=14.9%)

「コミュニティセンター」が最も多く、約4割



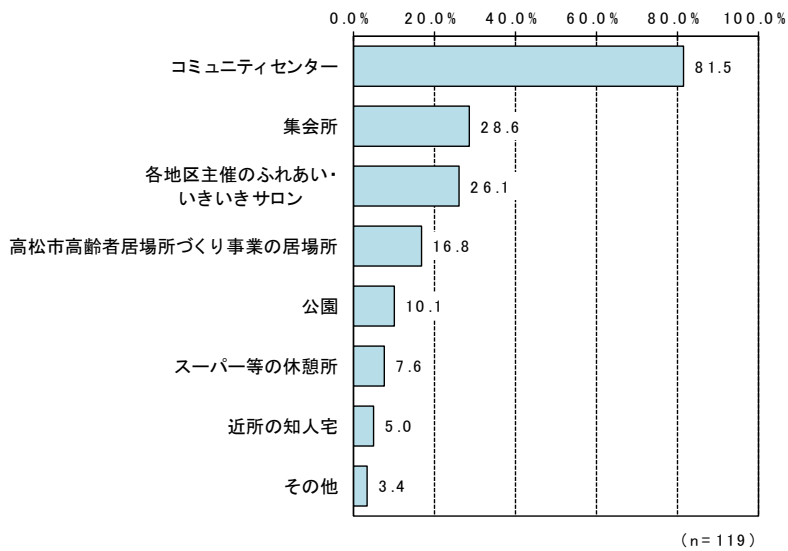
②要介護認定者（報告書P179）（参加している=11.8%）

「高松市高齢者居場所づくり事業の居場所」が最も多く約3割



③一般市民（報告書P215）（知っている=30.1%）

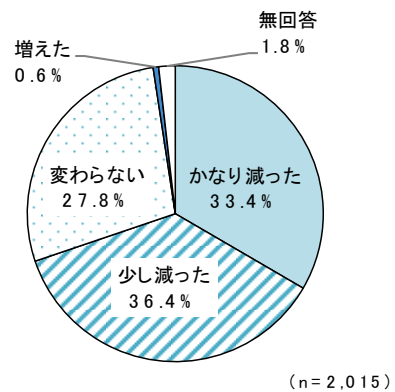
「コミュニティセンター」が最も多く8割以上



●新型コロナウイルス感染症流行前と比べた、家族や友人等身近な人と過ごす時間 (①高齢者、②要介護認定者)

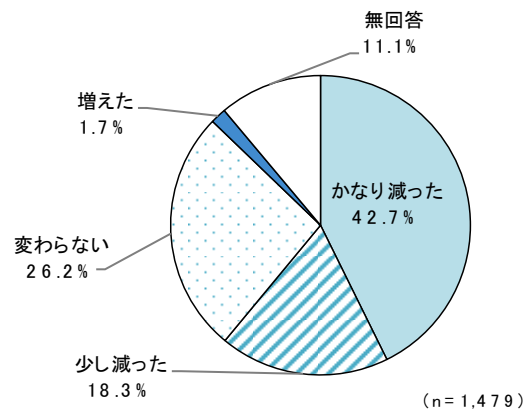
①高齢者 (報告書P75)

「かなり減った」又は「少し減った」と回答した人が合わせて約7割



②要介護認定者 (報告書P177)

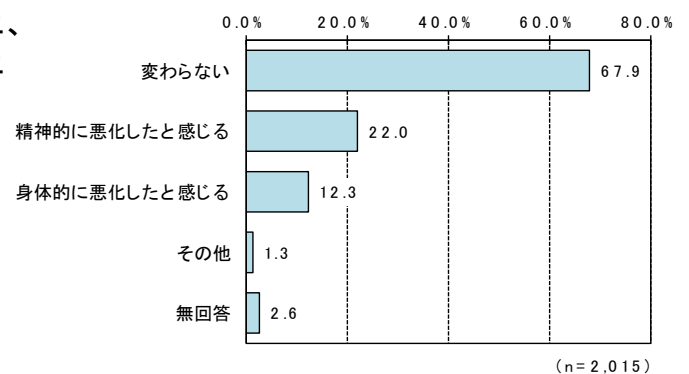
「かなり減った」又は「少し減った」と回答した人が合わせて6割以上



●新型コロナウイルス感染症流行前と比べた、健康状態の変化 (①高齢者、②要介護認定者)

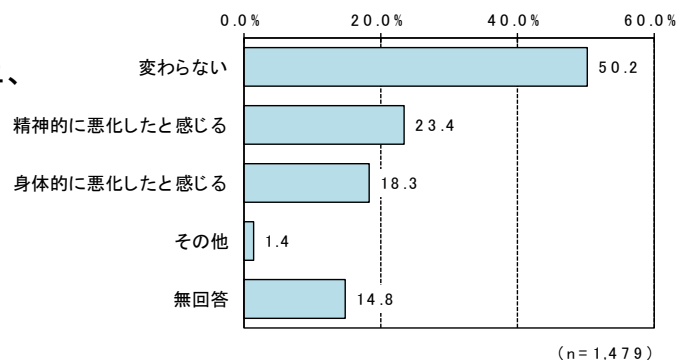
①高齢者 (報告書P87)

「精神的に悪化したと感じる」人が2割以上、「身体的に悪化したと感じる」人が1割以上



②要介護認定者 (報告書P186)

「精神的に悪化したと感じる」人が2割以上、「身体的に悪化したと感じる」人が約2割

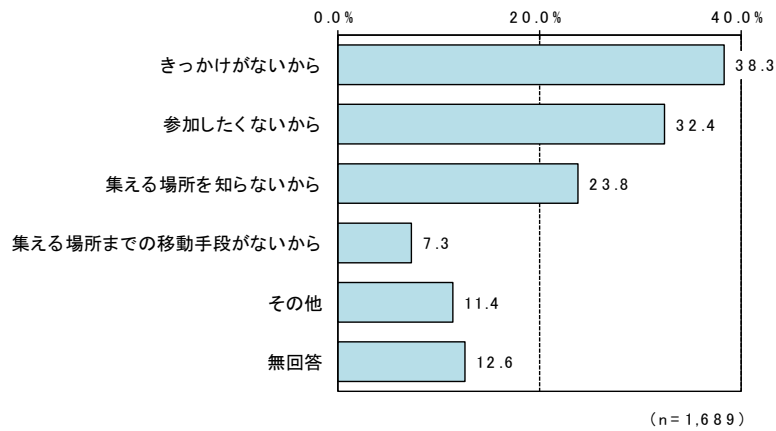


●高齢者が集える場所に参加しない理由について

(①高齢者、②要介護認定者)

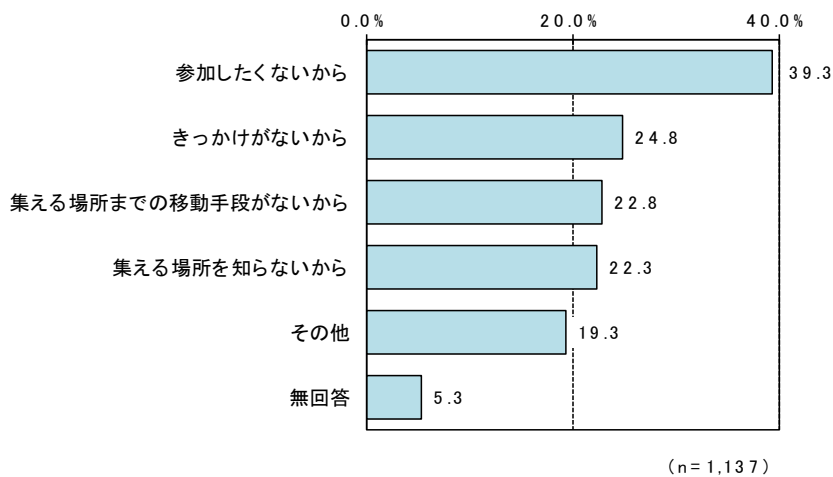
①高齢者 (報告書P80) (参加していない=83.8%)

「きっかけがないから」が最も多く約4割



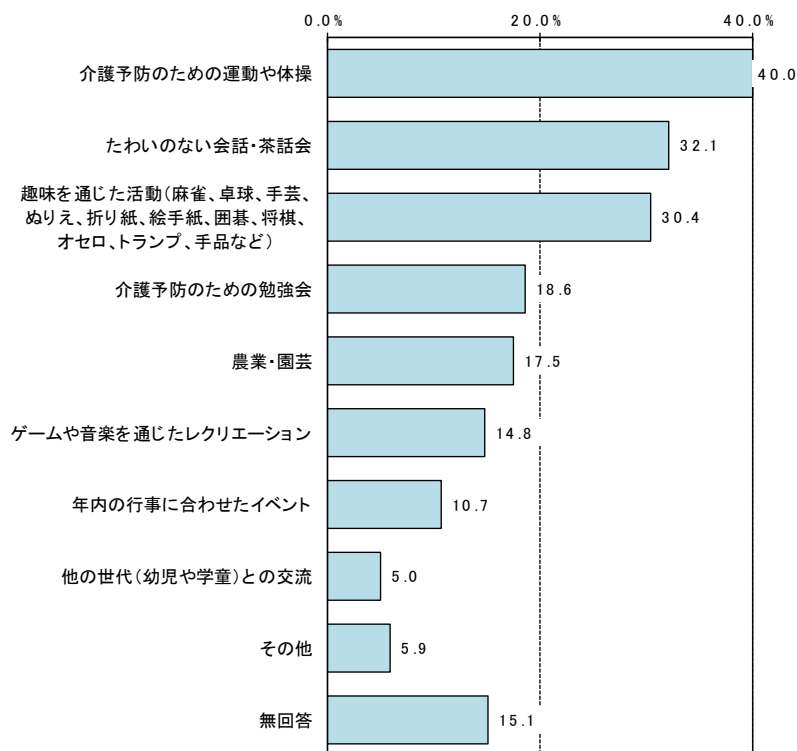
②要介護認定者 (報告書P181) (参加していない=76.9%)

「参加したくないから」が最も多く約4割



①高齢者（報告書P82）

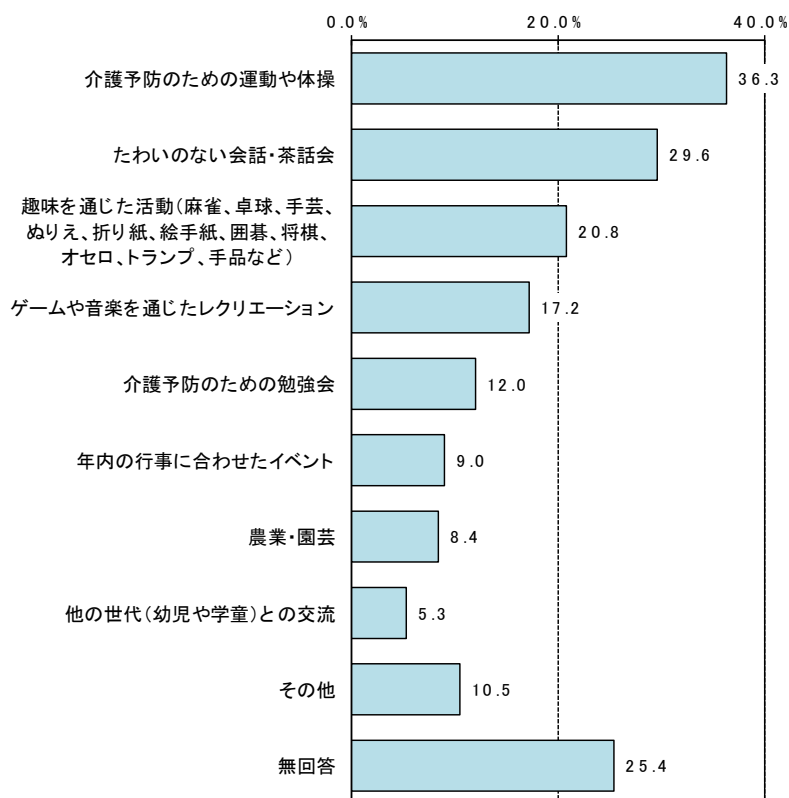
「介護予防のための運動や体操」が最も多く4割



(n=2,015)

②要介護認定者（報告書P182）

「介護予防のための運動や体操」が最も多く約4割

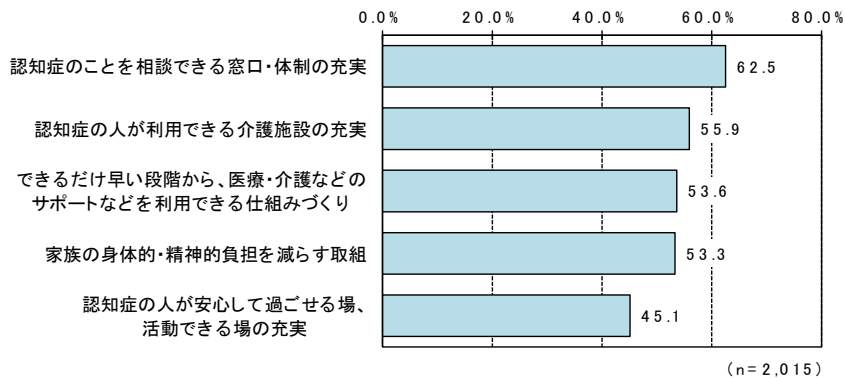


(n=1,479)

●認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきこと (①高齢者、②要介護認定者、③一般市民)

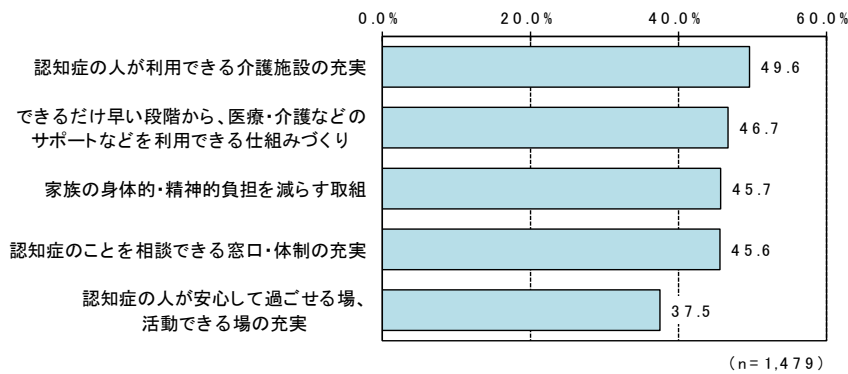
①高齢者 (報告書 P 65)

重点を置くべきこと (上位5つ)



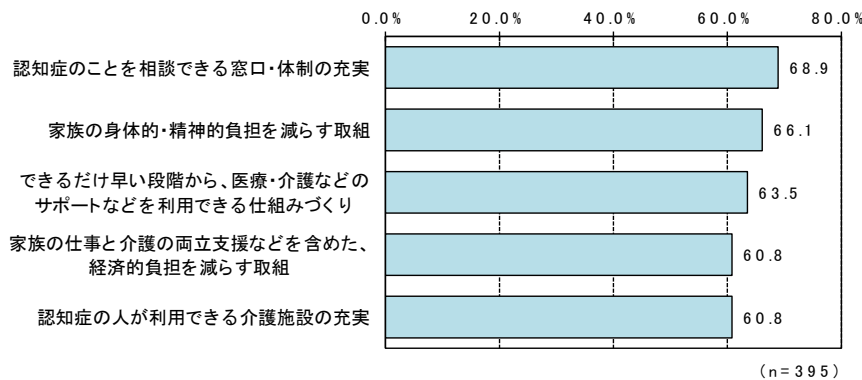
②要介護認定者 (報告書 P 172)

重点を置くべきこと (上位5つ)



③一般市民 (報告書 P 222)

重点を置くべきこと (上位5つ)



●自分の最期を迎えたい場所について (①高齢者、②要介護認定者、③一般市民)

最期を迎えたい場所 (上位3つ)

	1位	2位	3位
①高齢者 (報告書P106) n=2,015	自宅 (61.0%)	緩和ケア施設のある 医療機関 (13.5%)	今まで通ったことのある 医療機関 (12.3%)
②要介護認定者 (報告書P193) n=1,479	自宅 (51.0%)	介護保険施設 (特養など) (13.7%)	今まで通ったことのある 医療機関 (9.5%)
③一般市民 (報告書P240) n=395	自宅 (47.8%)	緩和ケア施設のある 医療機関 (25.8%)	今まで通ったことのある 医療機関 (7.8%)

●自分の最期の時について話し合った経験について (①高齢者、②要介護認定者、③一般市民)

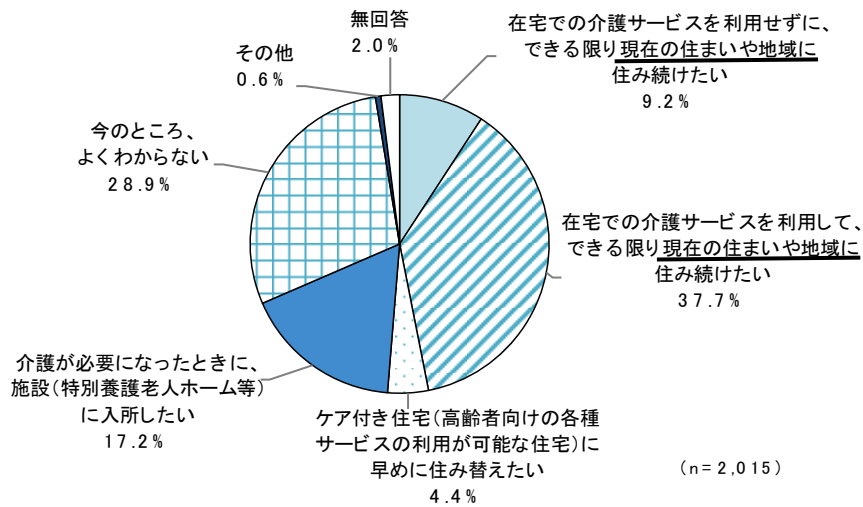
自分の最期の時について話し合った経験 (上位3つ)

	1位	2位	3位
①高齢者 (報告書P106) n=2,015	話し合ったことはない (54.0%)	話し合ったことはないが、話し合ってみたいと思う (25.9%)	話し合ったことがある (17.3%)
②要介護認定者 (報告書P193) n=1,479	話し合ったことはない (49.2%)	話し合ったことがある (19.0%)	話し合ったことはないが、話し合ってみたいと思う (17.3%)
③一般市民 (報告書P240) n=395	話し合ったことはない (64.6%)	話し合ったことはないが、話し合ってみたいと思う (21.8%)	話し合ったことがある (13.2%)

●将来の住まいと介護サービスの利用について（①高齢者、②要介護認定者、③一般市民）

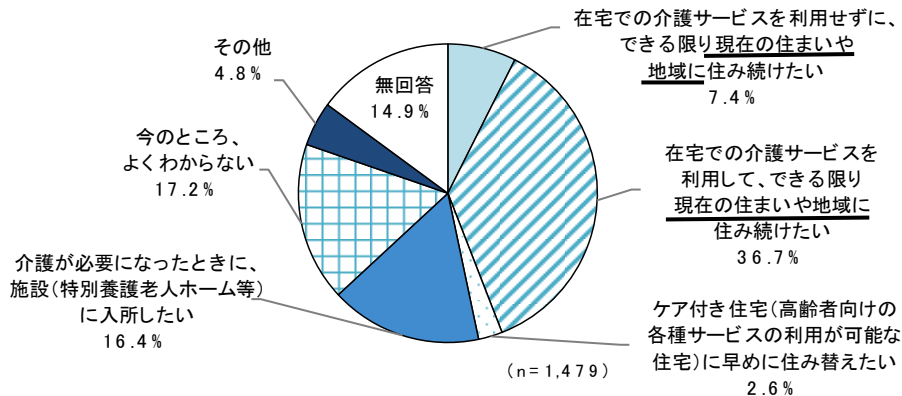
①高齢者（報告書P108）

将来は、介護施設よりも、現在の住まいや地域に住み続けたい人が多い



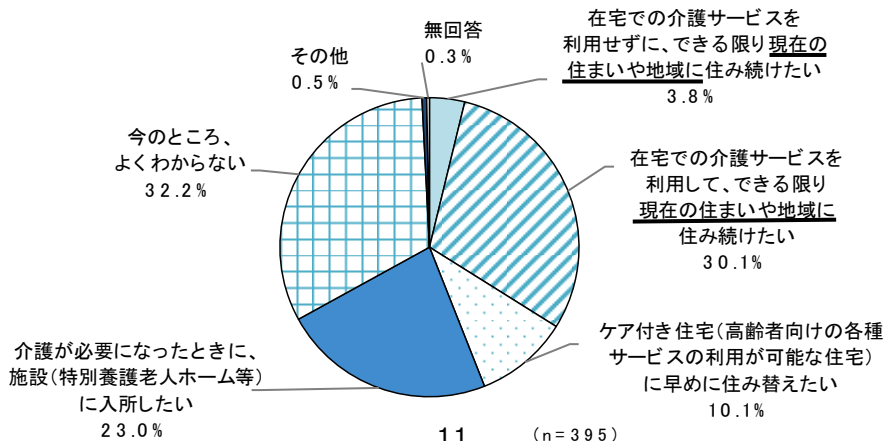
②要介護認定者（報告書P195）

将来は、介護施設よりも、現在の住まいや地域に住み続けたい人が多い



③一般市民（報告書P242）

現在の住まいや地域に住み続けたい人、必要に応じて介護施設に入所したい人、今のところよくわからない人が、それぞれ約3割



●地域包括ケアシステムにおいて重要なことについて（①高齢者、②要介護認定者、③一般市民）

地域包括ケアシステムの構築の推進に当たり、特に重要だと思うこと（上位3つ）

	1位	2位	3位
①高齢者 （報告書P111） n=2,015	家族や親族の 理解と協力 （67.3%）	自宅近くの診療所や クリニックの充実 （58.4%）	介護保険施設 （特養など）の充実 （45.7%）
②要介護認定者 （報告書P198） n=1,479	家族や親族の 理解と協力 （60.9%）	介護保険施設 （特養など）の充実 （52.5%）	自宅近くの診療所や クリニックの充実 （52.1%）
③一般市民 （報告書P245） n=395	家族や親族の 理解と協力 （75.2%）	自宅近くの診療所や クリニックの充実 （60.0%）	介護保険施設 （特養など）の充実 （59.7%）

●各種リスク判定

（①高齢者）

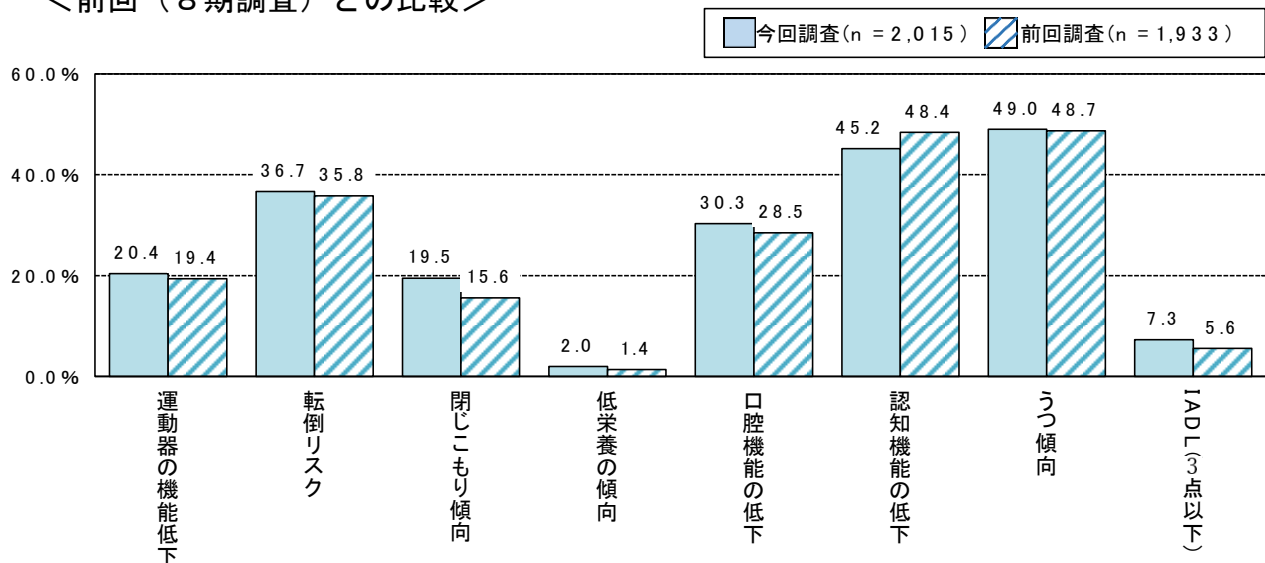
各種リスク判定結果（報告書P263～）

リスク判定とは、国の示すリスク判定項目（閉じこもり傾向、低栄養の傾向等）に関連する設問において、特定の選択肢を一定数選んだ者をリスク該当者として判定するもの。

例）「物忘れが多いと感じますか」の設問に対し、「はい」と回答している場合、認知機能の低下のリスクがあると判定する。

下図は、調査対象者のうち、各判定項目におけるリスク該当者の割合を示している。

<前回（8期調査）との比較>



①高齢者（報告書P247～）

【介護保険料、医療費など経済的負担について】

- ◆近年介護保険料が高くなっているが、どの程度まで上昇するのかが、我々年金生活者は不安と思われる状況があるが、仕方ないのかとも思う部分もある。

（男性 70～74歳）

【介護予防について】

- ◆高齢者を対象とした介護予防講習をきめ細かく身近な所で実施して欲しい。介護予防活動へ積極的に参加する人達には、自治体からの見返りが有ることが高齢者の意欲を高めるのではないのでしょうか。そういう対策をお願い致します。

（女性 70～74歳）

【不安なことや困りごとについて】

- ◆子供のない二人家族が高齢になると老々介護が心配。一人になって介護を必要とするときは、介護施設の充実を望みます。

（男性 80～84歳）

②要介護認定者（報告書P253～）

【介護保険制度について】

- ◆介護保険制度をどのように利用してよいか、仕組みがよくわからない。家族が介護認定を受けて初めて知ることばかり。でも申請しても、認定等許可が下りるのがすごく時間・日程がかかる。もっと迅速にできないものか。

（男性 65～69歳）

【不安なことや困りごとについて】

- ◆認知症高齢者の1人暮らしなので生活全体で不安があります。施設利用なども手続きを簡単にできればと思います。

（女性 75～79歳）

【行政への要望・意見について】

- ◆今後とも高齢者が安心して生活できる地域社会をつくってほしいです。

（女性 75～79歳）

③一般市民（報告書P258～）

【介護予防について】

- ◆同居家族がいなくても近い将来のことを話し合い、どうしたいか、現実的にはどうするか 延命のことなど話し合っておく必要があると思う。特に高松市は子供世代が都会に出て、老夫婦で暮らしている世帯も多いように思う。介護などの申請や必要性が結局病気になる、受診してからしか進まないため、もう少し予防の段階で介入できるように整えてもらいたい。

（女性 40～44歳）

【不安なことや困りごとについて】

- ◆本当に必要な人に情報が届かない。相談する事ができない等があるように思います。地域の関わりが今後大切なのではないかと思います。

（女性 50～54歳）